

海仁草抽出物ノ蛔蟲驅除作用ニ就テ

醫學博士 謹 訪 瑩 一

海仁草 *Digenia Simplex* Ag. (海人草、鷓鴣菜、和名かいにんそう、まくり) ハ紅色藻類ニ屬シ全長二三寸乃至七八寸生時ハ黒紫色ヲ帶ビ乾燥スレバ暗褐色ニ變ズ、體ハ圓柱狀ニシテ複叉狀又ハ不規則ナル分岐ヲナシ基部少許ヲ除キ全部ハ無數ノ細短ナル小枝ヲ以テ被ハレ、形狀狐ノ尾ノ如ク千潮線附近ヨリ五六尋ノ海底ニ珊瑚礁岩石等ニ簇生シ大西洋印度洋ノ熱帶部ニ多ク南洋、支那海、本邦ニ於テハ臺灣、沖繩、鹿兒島、熊本、長崎、高知、和歌山ノ各縣等黒潮流域ニ沿ヒテ產出ス。

海仁草ノ本邦ニ於テ民間藥或ハ醫藥トシテ採取應用セラレタルハ既ニ久シキ以前ニ屬シ和漢三才圖繪ニ

海人草生琉球海邊藻花也多出於薩州販于四方黃色微帶黯長一二寸有岐無根鬚而有微毛茸輕虛味甘微鹹能瀉胎毒一夜浸水去土砂小兒初生三日中先用海人草甘草二味或加落根包帛浸湯令吃之呼曰甜物此方不知始於何時本朝通俗必要之藥也吞之兒吐涎沫謂之吐穢汁可以去膈上胎毒既及吃乳則不吐用加味五香湯可下

ト記載セルガ如ク「胎毒下し」ト稱シ民間ニ廣ク初生兒ニ其ノ浸劑ヲ服用セシメタルノ習慣アリ殊ニ驅蟲藥トシテ閩書南產志ニ

鷄鴟菜生海石上、散碎色微黑、小兒腹中蟲病、炒食能愈

ベキヲ示シ醫家ニヨリ

鷄鴟菜丸 治一切胎毒蟲癬或寒熱如瘧者下之蛇蟲尤妙也

鷄鴟菜二錢、蒲黃大黃各三分、苦棟皮二分
右爲末糊丸煎服尤可也

鷄鴟菜湯 治腸胃中蟲

鷄鴟菜二錢半、蒲黃五分、甘草二分
右水煎服

謹訪—海仁草抽出物ノ蛔蟲驅除作用ニ就テ

諭訪—海仁草抽出物ノ蛔蟲驅除作用ニ就テ

三二一六

等ノ方剤ヲ以テ確實ニ蛔蟲ヲ驅除シ得ベキヲ稱セラレ「胎毒下し」ト同ジク亦民間薬トシテ普ク之ヲ賞用シ「サントニン」ノ舶來スルニ至ルマデ永ク其ノ聲價ヲ持續シタリ。

然リト雖モ驅蛔剤トシテ海仁草ノ應用ハ爾後全ク廢滅ニ歸セシニアラズ、海仁草末或ハ其ノ煎劑ヲ却テ「サンニン」ニ代用セル醫家少カラザルノミナラズ明治三十七年田中正鐸氏ハ驅蛔煎ト稱シ

海仁草 二〇・〇

旃那葉 五・〇

右二〇〇・〇ニ煎出シ一日三回分服

スルヲ以テ效果著シキヲ報告シ、大正四年武田鹿雄博士ハ「サントニン」ノ極量或ハ其レ以上ト共ニ旃那、榮實等ノ下剤ヲ與ヘタル患者及海仁草二〇・〇ヲ單味煎劑トナシ服用セシメタルモノトニ就テ比較シ、後者ノ些ノ副作用ナキノミナラズ驅蟲效驗卓越セルノ他近時好ンデ海仁草ヲ處方スルノ醫家再び多キヲ加フルニ至レリ。

余數年前ヨリ海仁草抽出物ノ研究ニ從事セルニ際シ蛔蟲驅除成分ヲ分離シ之ヲ臨牀上ニ應用シテ其ノ效果ヲ實驗セリ、即チ同抽出物ヲ錠剤或ハ「エキス」剤トナシ岡山縣病院内科、小兒科、產婦人科ニ依囑シ豫メ糞便検査ヲ行ヒ蟲卵ヲ檢出セル入院患者ニ食後三十分乃至一時間ヲ經テ抽出物ヲ頓服セシメ下剤ヲ應用セズ時ニ頓用後數時間ヲ經テ之ヲ伍用シ爾後排蟲如何ヲ検査セリ、抽出物ノ用量ハ大人ニハ新驅蟲剤「ヂゲニン」ノ二乃至四瓦小兒ニハ同剤ノ〇・五乃至二瓦ニ相當スル量ヲ以テセリ、今其ノ結果ヲ表ニヨリ略述スレバ次ノ如シ。

表中 (内婦小)ハ内科、婦人科、小兒科患者ノ略

姓 オ、 ハ (婦)	名 (婦)	年 齢 四一	服 用 時 日 大正五年 十一月六日	排 蟲 匹 數 20	排 蟲 時 日 十一月八日、九日	備 考 3 同 十日
---------------------	----------	--------------	-----------------------------------	------------------------	------------------------------	------------------------

キ、カ、ヤ、ア、オ、タ、
タ、イ、マ、
テ、オ、キ、
ス、オ、オ、ア、マ、
ツタキユチケ クゴツ
キスハ クスヤ キヤ
(内)(内)(小)(小)(内) (内)(内)(内) (内)(婦)(婦) (内)(婦)(小) (小)(小)

二九六五二一四二〇 二八五一三 二九四五 二〇二〇七 七五

八月	大正十二年六月	十一月	十一月	十一月	十一月	十一月	十一月	十一月	十一月	十一月	十一月	十一月	十一月
八一	一四日	二十八日	二十九日	二十八日	二十六日	二十五日	十五日	十四日	十三日	十二日	十一日	十日	九日
日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日

3 6 1 1 2 10 1 0 1 2 1 1 10 17 2 1 7 2 7 1

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
十二	十六	四	三十	十四	十二	七	十	二	二十七	二十九	十五	十四	八
日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日

胸膜炎患者
咽頭「ザフテリ」患者
海仁草抽出物二回連用
海仁草抽出物二回連用

蛔蟲排出時腹痛ヲ訴フ
海仁草抽出物二回連用
海仁草抽出物二回連用
海仁草抽出物二回連用

誠訪—海仁草抽出物ノ蛔蟲驅除作用ニ就テ

三二八

ト、コ、ム、オ、キ、タ、ヤ、カ、ワ、カ、フ、ア、キ、イ、サ、
モ、ト、ユ
ハマ〇 チ〇〇〇〇〇セミアタアノ
(小)(小)(内) (小)(内)(内)(小)(内)(内)(内)(内)(内)(内)(内)

一〇九三六 三四三九 二七三五 三二一〇 一八二九 四三五〇 二七三九

一月二十四日	大正十二年一月二十六日	大正十二年二月二十五日	大正十二年三月二十三日	大正十二年四月十九日	大正十二年五月二十九日	大正十二年六月二十九日	十一月十五日	十一月十七日	十一月二十一日	十一月二十一日	十一月二十六日	十一月二十六日	十一月二十六日
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同

I	I	I	I	2	I	2	I	2	2	9	I	I	2	6	I	I	2	6	I	3
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	十二月三日	
二十六日																				
二十三日	二十七日	二十六日																		

蛔蟲ハ排泄後生存セリ
 「サントニン」ヲ服用スルモ排蟲セザル患者
 「サントニン」ヲ服用シタルモ驅蟲セザル患者
 海仁草抽出物二回連用
 六匹中五匹生存セリ

「サントニン」ニヨリ排蟲セザリシ患者
 海仁草抽出物十數日ニ亘リ連用セリ

諏訪一海仁草抽出物ノ蛔蟲驅除作用ニ就テ

一一〇

以上ノ成績ヲ總括スレバ服用患者總數六十三名ノ中五十四名ハ服用後當日(七例)、二日乃至三日目(二十三例)、四日目(一例)、其ノ多數ハ翌日(二十例)ニ最モ多キハ二十四少キハ一匹ノ蛔蟲ヲ排出セリ、就中下劑ヲ應用セルト
九名ニシテ他ノ四十五名ハ之ヲ伍用セズ自然ニ放任セルモノナリ、殊ニ一名ヲ除クノ他ハ只一回量ノ頓服ニヨリ奏
效セルモノニシテ患者ノ何レモ服用ヲ嫌忌スルモノナク服用後又毫モ副作用ヲ現ナズ、一日一回ヅ、二回或ハ四回
之ヲ連用セル小兒科患者ニ於テスラモ些少ノ副作用ヲ認メズ、胸膜炎、肺炎、其他腸加答兒患者ニ投與シテ該症ノ
經過ニ何等認ムベキ障碍ヲ誘起セズ、特ニ興味アルハ「サントニン」ニヨリ驅蟲シ得ザリシ三例ノ患者ニ本抽出物ヲ
唯一回應用シタルノミニテ完全ニ排蟲ヲ見タルコト之ナリ、前記排蟲患者ノ外二名ハ結果不明、七名ハ服用後下劑
ヲ應用シタルモ排便中ニ蛔蟲ヲ發見セズ、之ヲ以テ直チニ本抽出物ニヨリ驅蟲シ得ザリシモノトスベカラザルハ患
者ニ單ニ一回用量ノ頓服ヲ行ヘルノミニテ數回ノ連用ヲ爲セルニアラザルガ故ナリ、海仁草抽出物ニヨリ絶對ニ

驅蟲シ得ザルモノアルカニ就テハ更ニ他日ノ實驗ニ待ツベキモノトス。

之ヲ要スルニ余ノ抽出シタル成分ハ唯寄生蟲ニ有害ナルノミ、タトヘ其ノ用量以上或ハ之ヲ連用スルモ宿主ニ何等ノ危害ヲ及ボスコトナクシテ驅蟲ノ效果ヲ顯シ眞ニ理想ニ近キ驅蟲剤トシテ推奨スルニ足ルモノニシテ、「サントニン」ノ中毒作用ヲ惹起スルコトアルノミナラズ近時其極量以上ヲ應用シテ猶且奏效ヲ見ザルヲ耳ニスルコト屢々ナル時寧ロ海仁草抽出物ヲ以テ之ニ代用スルヲ合理的トナスベキカ、況シヤ本邦古來ヨリ好ンデ該草ヲ應用シタルコトアルノミナラズ黒潮流域ニ沿フ諸縣沿岸ニ於テ比較的多量ノ產出ヲ見ルガ故ニ容易ニ之ヲ採集シ得ベク原產地ニ於テ之ガ繁殖ニ一定ノ保護ヲ與フル時ハ材料ノ供給ニモ不足スルコトナキニ於テオヤ。

結論

海仁草抽出物中ヨリ夾雜物ヲ分離セル成分ハ宿主ニ何等ノ副作用ヲ及ボスコトナク確實ニ驅蛔作用ヲ奏シ「サントニン」ニ比シ寧ロ優秀ナル驅蟲藥タリ得ベシ。

本實驗實施ニ際シ島園、覧、齋藤、好本、安藤諸教授ノ多大ノ便宜ヲ附與セラレタルニ對シ、蓮井、中村、新、岩藤、二川、山本、白阪、中山、安本、佐藤、小林、遠藤、白石、武藤、長谷井、關場、林、富岡、南川、向谷、並ニ内科、小兒科、產婦人科職員諸氏ノ親シク本實驗臨牀上ノ觀察ヲ快諾實施セラレタルニ向ヒ謹ミテ謝意ヲ表ス。

引用書目

- I 田中正鐸 田中氏驅蛔劑—東京醫事新誌第一三六六號（明治三十七年七月）
- II 田中正鐸 再ビ驅蛔作用ヲ有スル海仁草ニ就テ—東京醫學會雜誌第十八卷第十六號（明治三十七年八月）
- III 半井朴 蝇蟲纂說—京都醫學雜誌第七卷第三號（明治四十三年七月）
- IV 武田鹿雄 海仁草ノ臨牀的並ニ實驗的研究—京都醫學雜誌第十二卷第三號（大正四年七月）
- V 小出脩 「サントニン」ノ代用藥ニ就テ—海軍々醫會々報第十四號（大正五年十二月）
遠藤吉三郎 海產植物學
和漢三才圖繪 和漢藥考 本草綱目